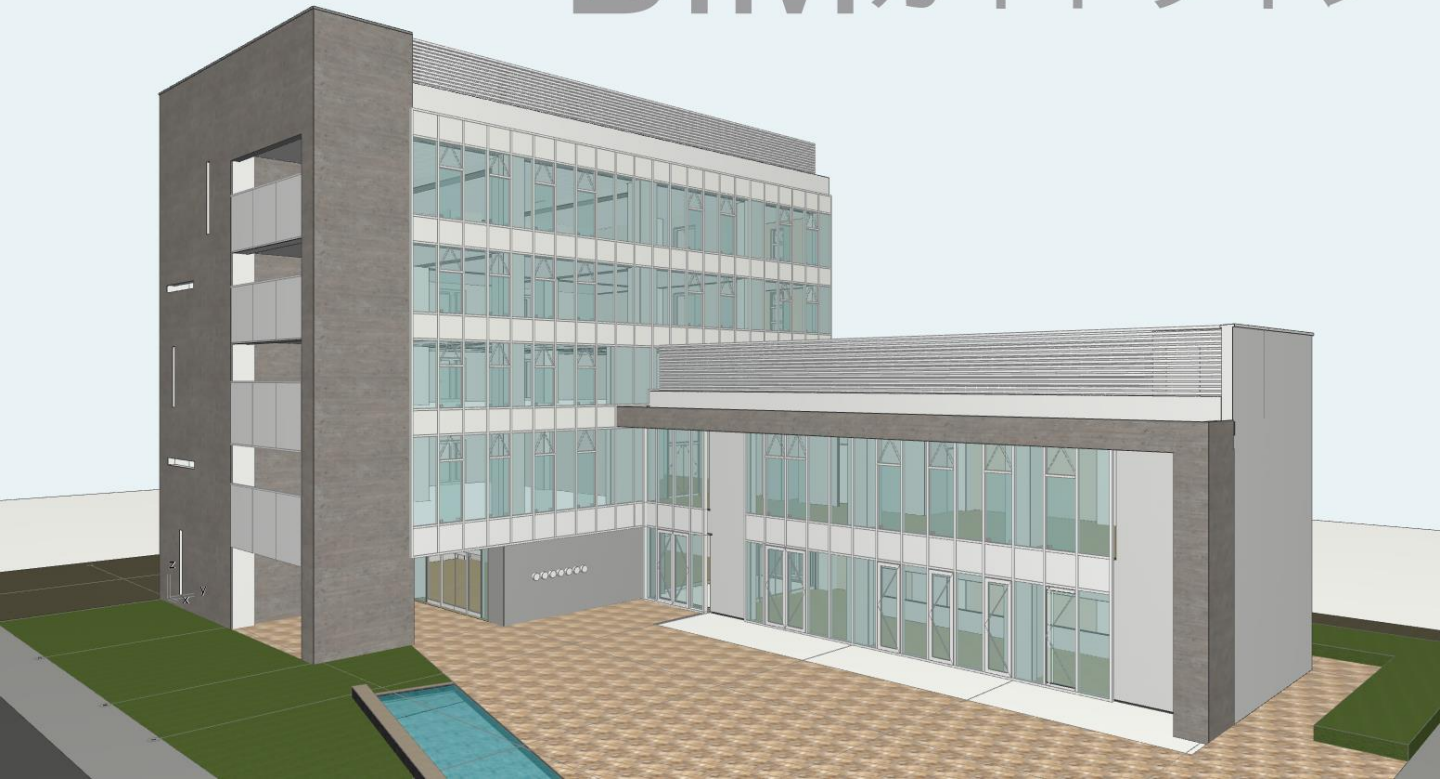


ARCHICAD BIMガイドライン



『ArchiCAD BIMガイドライン』は、従来の2次元図面を利用した設計ワークフローからBIMを活用した設計ワークフローに移行する際の作成要綱や手順を、実際の設計者による蓄積されたノウハウを基に、全てのArchiCADユーザが利用できるようにまとめられたガイドラインです。

当ArchiCAD BIMガイドラインモデルは実存の建物ではなく、架空の敷地に建物を想定して設計しています。標準的な納まりを数多く揃えたサンプルデータを、企画設計・基本設計・実施設計の各フェーズのモデリングに参照いただけます。

内容

効果的なBIMモデル及び図面制作ルール
環境設定テンプレートへの活用
データ連携の効率化・正確性

ご提供の範囲

ArchiCAD BIMガイドラインの活用により作成可能な設計図書

企画設計
基本設計
実施設計（意匠・構造）

ArchiCAD BIMガイドラインにより提供される情報

実務に沿ったBIMデータ
各設計図書の作成解説ドキュメント
テンプレートファイル

ArchiCAD BIM ガイドライン

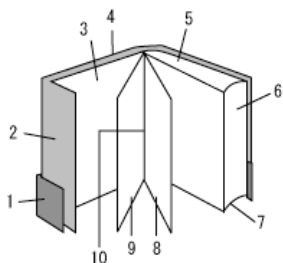
ガイドラインの構成



実務に沿ったモデルデータ「.pla ファイル」

- ・ 企画設計編
- ・ 基本設計編
- ・ 実施設計編（意匠・構造）

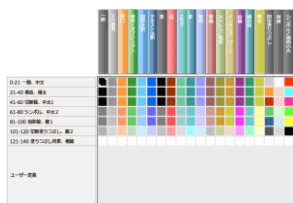
標準的な納まりを揃えた架空の建物をベースに、モデルの構築から図面への展開をわかりやすく解説しています。各分野のプロによる実務に則した設計表現や、モデルの構築のノウハウが集約され、モデル作成のルールを明瞭化できます。『導入後の指針として』、『各社仕様のテンプレート作成のベースとして』、『トレーニングのサンプルモデルとして』など、使い方は様々。ArchiCADさえあれば、いつでもだれでも、簡単に使えます。



ドキュメント（解説）

- ・ 各設計図書の作成解説ドキュメント

ArchiCADで作成された各設計図書に対して、レイヤー設定やビルディングマテリアル設定などを含む環境設定の解説およびモデリングルール、ワークフロー、図面化などについての詳しい説明を提供します。ドキュメントとモデルデータを一緒に見ることによって、企画設計、基本設計、実施設計の各フェーズで実務に合った効率よいBIMワークフローを実現することができます。



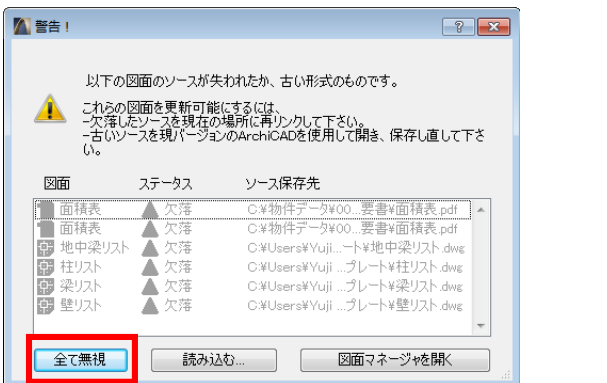
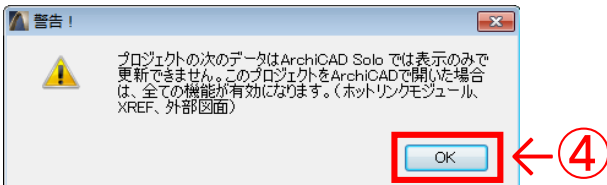
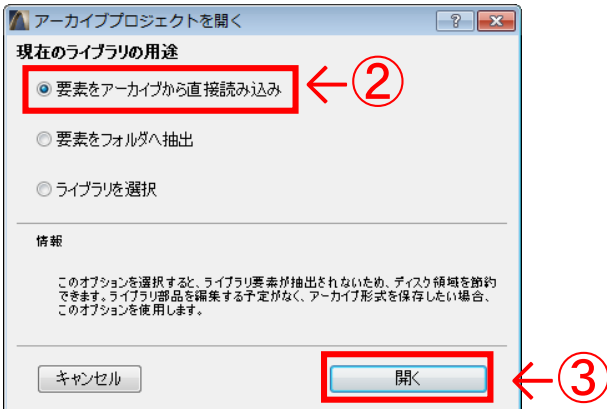
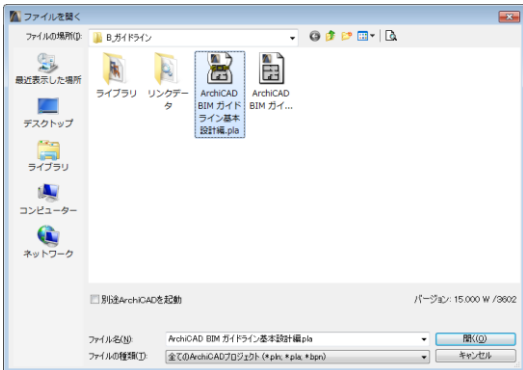
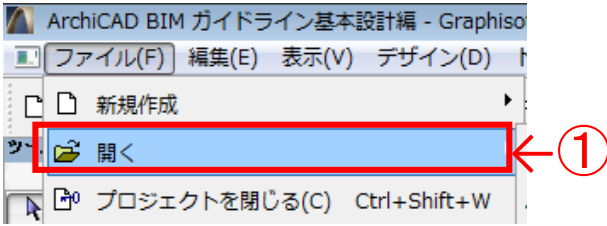
テンプレート「.tpl ファイル」

- ・ レイヤー
- ・ ペンカラー
- ・ 材質など・・・

ArchiCADでは新規プロジェクトを始めるにあたって、最初にいくつかの基本設定を決めておくことにより一層効率的に使うことができます。ここでは、各フェーズのモデルデータで使用した各種設定をテンプレートファイルとして提供することにより、「レイヤー設定」「ペンとカラーの設定」「材質の設定」などを実務においてより効率的かつ効果的に使っていただくことを目的としています。これを元として各々の実務に合わせて幅広く活用してください。

ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方



↑ ⑤

ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方を説明します

■ サンプルデータの開き方

ダウンロードした「ArchiCAD BIM ガイドライン企画設計編.pla」を開きます。

① ArchiCADを起動し、[ファイル]>[開く]から「ArchiCAD BIM ガイドライン企画設計編.pla」を選択します。
※もしくは「ArchiCAD BIM ガイドライン企画設計編.pla」をダブルクリックして、ArchiCADを起動します。

② 「アーカイブプロジェクトを開く」のダイアログが表示されるので「要素をアーカイブから直接読み込み」を選択します。

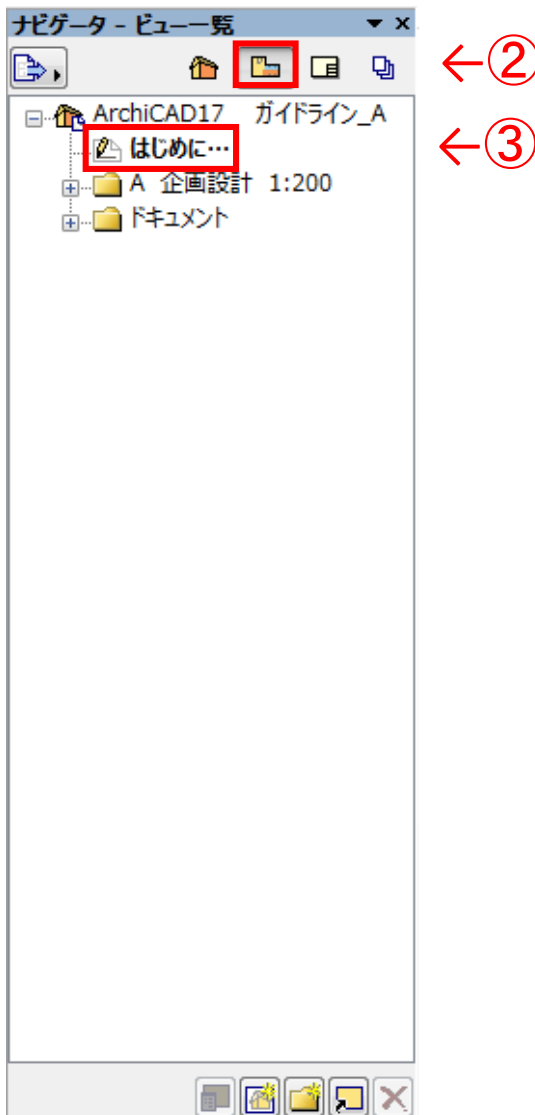
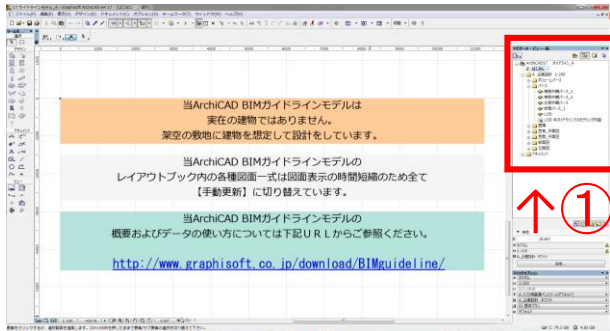
③ [開く]ボタンでファイルが開けます。

④ ArchiCAD Soloで開いた場合、外部図面についての警告が表示されますが、[OK]をクリックして次に進めます。

⑤ 外部図面についての警告が表示されますが[全て無視]を選択します。

ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方



ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方を説明します

■ データ説明

①ナビゲータメニューよりデータをご覧いただけます。

- ・プロジェクト一覧
- ・ビュー一覧
- ・レイアウトブック
- ・発行セット

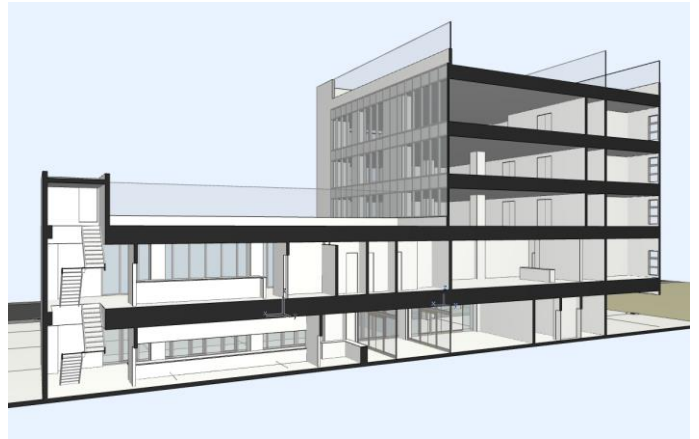
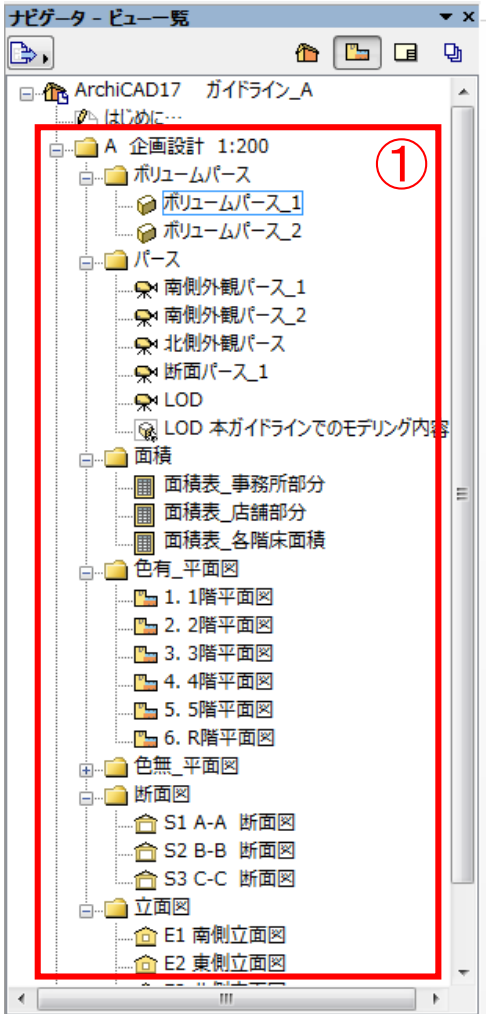
それぞれを切替える事で各データにアクセスできます。
※ナビゲータ詳細説明はヘルプでご確認ください。

②ナビゲータをビュー一覧に切替えます。
ビュー一覧に登録されている各ビューはプロジェクトの
各目的に合わせた表示設定をビューとして定義します。
保存されている全てのビューはナビゲータパレットの
ビュー一覧に表示されます。

③「はじめに・・・」内に、このガイドラインについて
説明を確認できます。

ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方



ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方を説明します

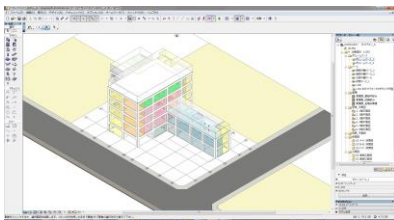
- ビュー一覧 A 企画設計 1:200
「企画設計」に関わるビューをご覧いただけます。

①ビュー一覧の「A 企画設計 1:200」フォルダを開きます。

②フォルダ内の各ビューをダブルクリックすると、各ビューが表示されます。

「A 企画設計 1:200」フォルダでは、企画フェーズの各種意匠図、そして3Dを確認できるビューが含まれます。

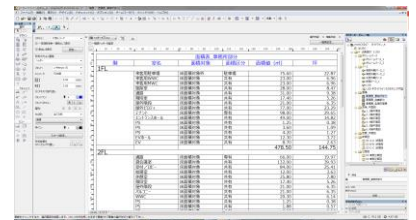
②



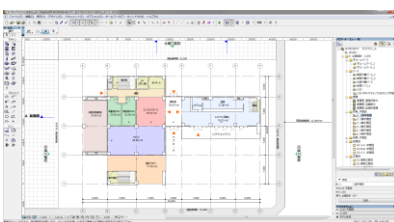
ポリュームパース_1



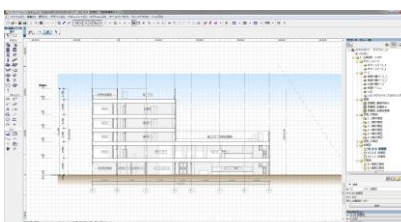
南側外観パース_1



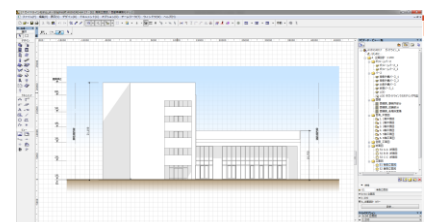
面積表_事務所部分



1階平面図



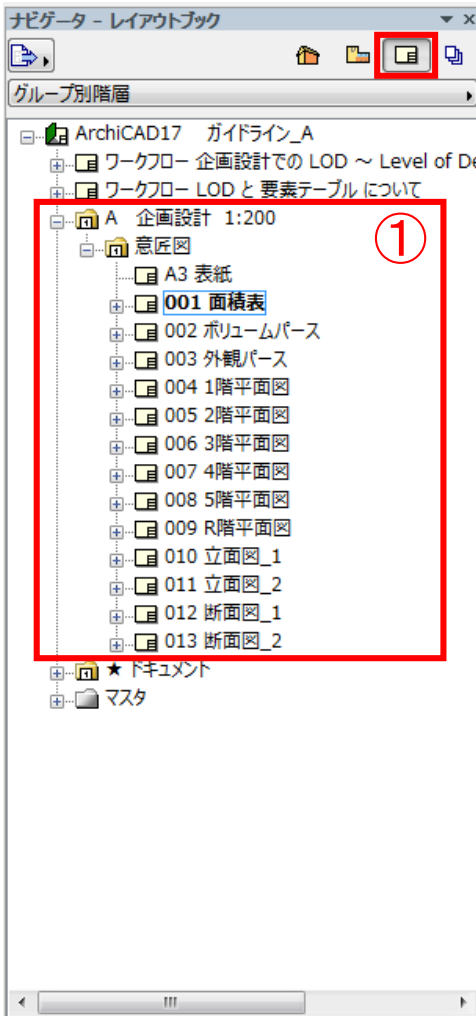
A-A 断面図



南側立面図

ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方



ArchiCAD BIM ガイドライン

サンプルデータの使い方を説明します

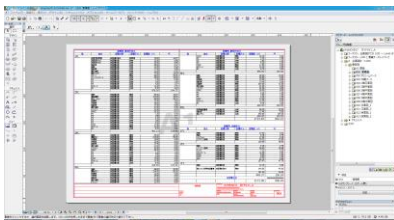
■ レイアウトブック

ここでは「ArchiCAD BIMガイドライン」のレイアウトされた各フェーズ毎の図面の見方を説明します。

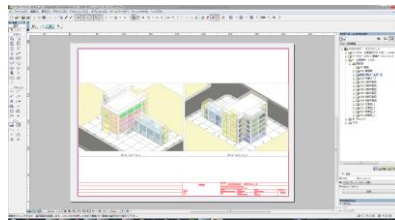
①レイアウトブックの「A 企画設計 1:200」フォルダを開きます。

②フォルダ内のレイアウトをダブルクリックすることで各図面を確認できます。

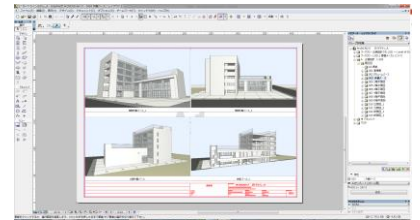
②



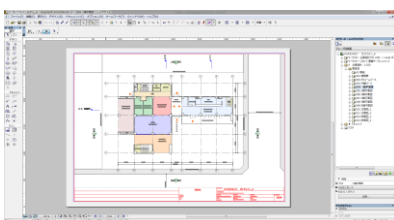
面積表



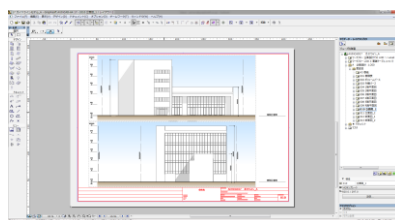
ボリュームパース



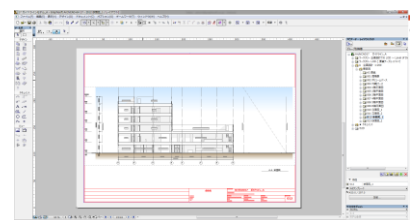
外観パース



1階平面図



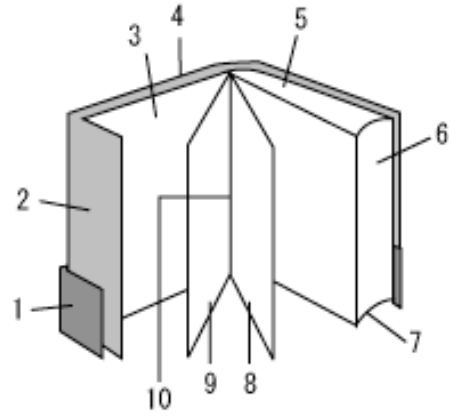
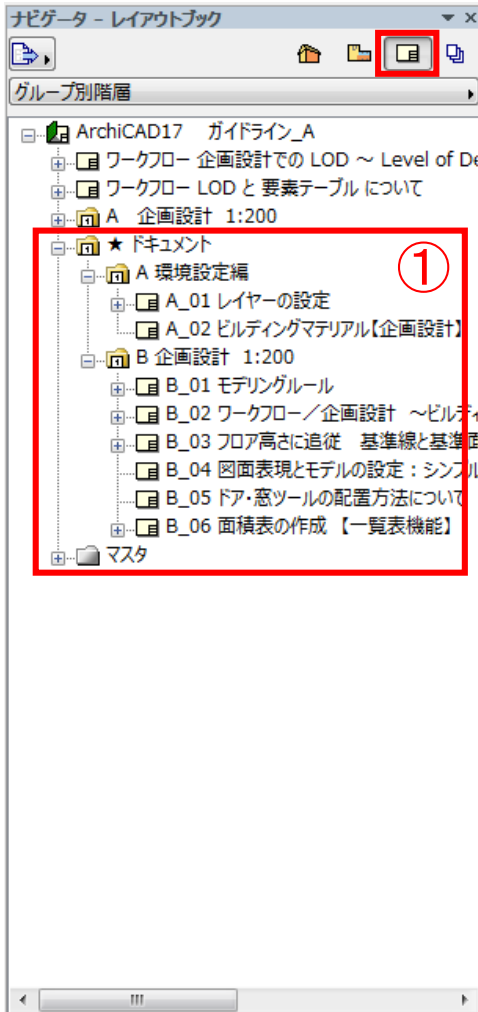
立面図-1



断面図-1

ArchiCAD BIM ガイドライン

ドキュメントの使い方



ArchiCAD BIM ガイドライン

ドキュメントの使い方を説明します

■ ドキュメント

ここでは「ArchiCAD BIMガイドライン」のモデルの作成に使用した環境設定の説明と、各フェーズのモデリングルール等を解説しています。

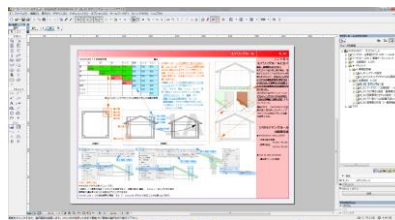
①レイアウトブックの「★ドキュメント」フォルダを開きます。

②フォルダ内のレイアウトをダブルクリックすることで各ドキュメントを確認できます。

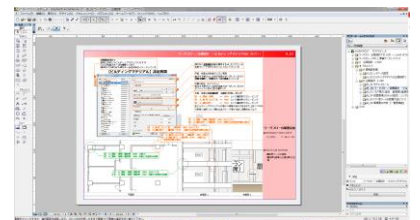
②



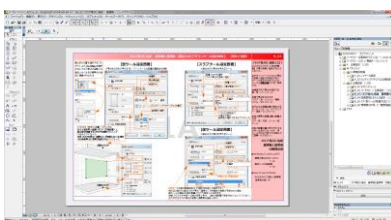
ビルディングマテリアル



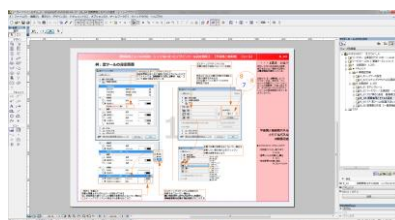
モデリングルール



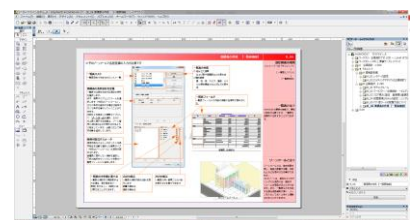
ワークフロー



フロア高さ追従



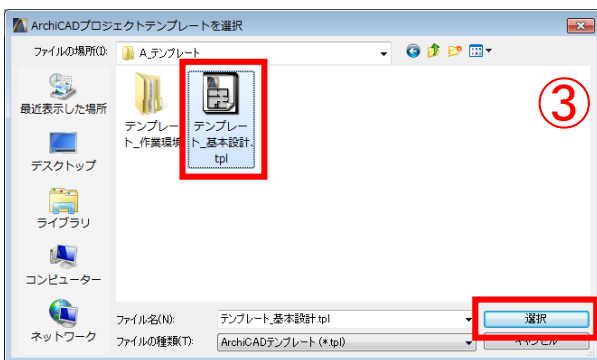
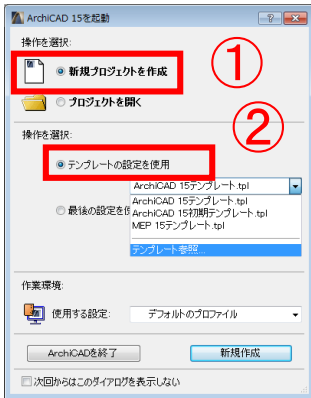
図面表現



面積表の作成

ArchiCAD BIM ガイドライン

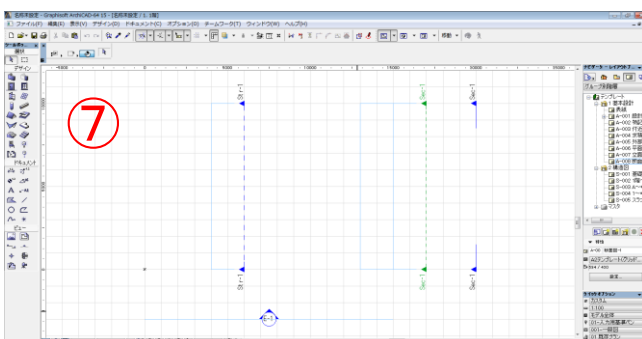
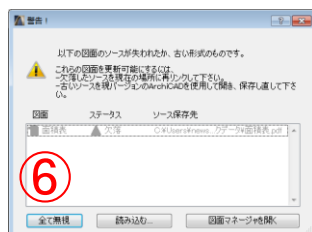
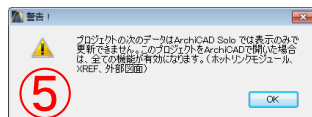
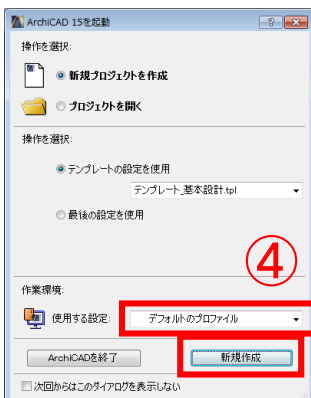
テンプレートの使い方



ArchiCAD BIM ガイドライン

テンプレートファイルの読み込方法を説明します

- 「ArchiCAD BIMガイドライン」基本設計編のテンプレートの使い方



- ① ArchiCAD を起動し「新規プロジェクトを作成」を選択します。
- ② 「テンプレートの設定を使用」を選択し、「テンプレートを参照」を選択します。
- ③ 「ArchiCAD BIMガイドライン」内の「テンプレート_基本設計.tpl」を選択します。
- ④ 作業環境は「デフォルトのプロファイル」を選択して[新規作成]をクリックします。
- ⑤ ArchiCAD Soloの場合、ArchiCAD Soloで開いた場合、外部図面についての警告が表示されますが、[OK]をクリックして次に進めます。
- ⑥ 外部図面についての警告が表示されますが[全て無視]を選択します。
- ⑦ テンプレートが反映された状態で新規プロジェクトが起動します。